



「海自艦、後方から接近」小型船の船客証言 広島事故

2014年1月15日23時55分

印刷

メール

スクラップ



海上保安庁の船に引航される小型船。後ろには「おおすみ」が見えた＝15日午後4時55分、広島県大竹市、朝日新聞社ヘリから、竹花徹朗撮影

広島県 大竹市の阿多田島沖で海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」と小型船「とびうお」が衝突して4人が海に投げ出された事故で、とびうおの船長高森昶(きよし)さん(67)＝広島市中区 吉島西＝が15日夜、死亡した。同乗の大竹宏治さん(66)＝同区 大手町＝は意識不明の重体。とびうおに乗っていて救助された寺岡章二さん(67)＝同区 吉島西＝は同日夜、報道陣の取材に「おおすみ」が後方から接近し、衝突した」と証言。第6管区海上保安本部はけががなかった寺岡さんら2人のほか、おおすみの乗組員から話を聴き、業務上過失往来危険容疑で調べている。

自衛艦と衝突、小型船が転覆 2人意識不明 広島沖

寺岡さんによると、とびうおの4人は釣り仲間。取材に対し、寺岡さんは「500メートルくらい手前で、おおすみの接近に気がついた」と証言。船前部に後ろ向きに座っていたため気づいたとし、船長の高森さんについては「前を向いて操縦していて気づいていなかったと思う」と説明した。

衝突する4～5メートルくらい手前で警笛が鳴り、右側から追いついたおおすみに、とびうおの船体右側中央辺りが擦るようにつつかり、とびうおが左側にひっくり返ったという。

6管によると、おおすみの左舷中央部の後方寄りに塗料のような衝突の痕跡がついていた。事故現場までの自衛艦と小型船の航行ルートは現時点で不明としながら、「出港地と目的地を組み合わせると、同じ方向に走っていたとかがえる」としている。

また、とびうおに乗っていた4人は救命胴衣をつけていなかった。救命胴衣の着用は義務づけられていないが、海上保安庁はこれまで安全のため着用するよう呼びかけてきたという。

一方、国土交通省の運輸安全委員会の4人が広島入りし、調査を始めた。今後、海保と連携しながら、乗組員らの話を聴く。

小野寺五典 防衛相は15日、東京都内の講演で「通常の航行の態勢を取っているので、私どもとしては何かそこで問題があるとは報告を受けていない」と述べ、自衛艦側の見張りや航行状況に問題はなかったとの認識を示した。

PR情報

愛車を高く売るなら？40万円以上の差も！「下取り」VS「買取り」

犯罪被害者をサポート～被害者参加制度が利用しやすくなりました-政府広報

【急募】年収1000万円～3000万円の求人増加中！エン限定の非公開求人多数

英語がダメな人達が絶賛！バカ売れ「日本一」の英会話教材とは？